

平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数, 理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

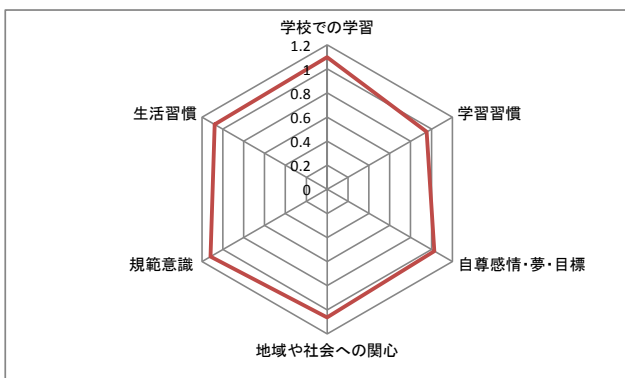
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	・校内比は、昨年度を上回っている。すべての問題に対して回答することができている。 ・問題に対して適切な情報を文の中から選択する問題、登場人物の心情について情景描写を基に捉える問題等、多くの項目で全国平均を上回っているが、文の中で漢字を使う問題については課題がある。	上回っている
国語B	・校内比は、昨年度を上回っている。すべての問題に対して回答することができている。 ・目的に応じて文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしなが記述する問題等、多くの項目で全国平均を上回っているが、計画的に話し合うための司会者の役割をとらえる問題等を読み取ることについては課題がある。	上回っている
算数A	・校内比は、昨年度を上回っている。すべての問題に対して、回答することができている。 ・円周率の意味を問う問題、百分率を求める問題、グラフから変化の特徴をとらえる問題等、多くの項目で全国平均を上回っているが、基本的な計算の間違いを防ぐ必要がある。	上回っている
算数B	・校内比は、昨年度を上回っている。ほぼすべての問題に対して回答することができている。 ・規則性の解釈と判断、図形の構成要素や性質から、集まった角の大きさを記述する問題等、多くの項目で全国平均を上回っているが、示された考えを解釈し、条件を変更して考察することについては課題がある。	上回っている
理科	・ほぼすべての項目について、全国平均を上回っている。 ・実験結果を基に分析・考察し、より妥当な考えをつくってその内容を記述する問題等、多くの項目で全国平均を上回っているが、骨と骨のつなぎ目についての科学的な言葉や概念の理解について課題がある。	上回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・「学校での学習」については、話し合う活動で自分の考えを広げたり深めたりすると感じている割合が全国平均よりも高くなっている。 ・「学習習慣」については、全体として全国平均よりも低くなっている。宿題についてはほぼ100%の児童が毎日取り組んでいるものの、計画を立てての家庭学習については全国平均よりも低くなっている。 ・「自尊感情・夢・目標」については、「自分にはよいところがある。」「将来の夢や希望がある。」は全国平均に比べて高い。 ・「生活習慣」については、全体的には全国平均と比べて上回っているものの、「朝食を毎日食べている。」項目は下回っている。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- ・話し合い活動による思考力・判断力・表現力等の育成の継続 特に、自分の考えを書く活動の充実を目指す。
- ・各教科の基礎・基本の定着を図る。
国語…基礎的な漢字学習の充実 算数…計算スキル 理科…概念や用語の定着
- ・授業中や「ひまわり学習塾」での課題把握と学力補充の取組の継続

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 家庭学習の時間や内容、自主学習の取り組み方についての指導の継続
- ・家庭学習のしおり、家庭学習チャレンジハンドブックの積極的な活用
- 望ましい生活習慣(朝食・ゲームをする時間等)の大切さを通信などで発信
- 小中連携による、9年間の一貫した学習・生活のきまりづくりの継続